『ジーニアス和英辞典』活用術―英作文の教室から

富永　幸

英語を使い慣れた人には基本的と思われる表現であっても，高校生が英語で書き，話す時には大いに迷います。『ジーニアス和英辞典』第3版の校閲作業の際には，教室にいる生徒たちを思い浮かべながら，「発信者」たる彼らに必要な情報がわかりやすく効果的に提示できるように心がけました。新指導要領の導入が迫り，「発信型の英語教育」がますます重視される今，この第3版は生徒たちに常に参照してもらいたい1冊です。

語彙選択は生徒が最も苦労するところです。校閲作業では，語彙の使い分けを示す簡潔な情報提示にこだわりました。「この数日でたくさんの人に会ったので，名前を覚えていない」の「会った」にあたる動詞は see か meet か。少なからぬ生徒が，“I have seen so many people in the past few days that I cannot remember all of their names.” としました。しかし，第3版「会う」の項目の，「《偶然または約束して会う》**meet** (O) 〈(O と)〉，**see** (O) 〈(O と)〉；《初めて会う》**meet** (O) 〈(O と)〉」を見れば，この場合に see が不適切であることは明白です。

間違えやすい動詞についても用法がわかりやすいように配慮しました。例えば，“I searched *Hayabusa* on the Internet.”（ネットで『はやぶさ』を検索した）は正しいか。第3版「検索する」では，「**search** O_1 **for** O_2 〈O_1で O_2を〉」と中見出しで示し，「インターネットで関西地域のキャンプ場を検索する search the Internet for campgrounds in the Kansai area」の用例を最初に提示しています。生徒がこれを見れば，search の目的語が “Hayabusa” ではないことに気づくことができます。また，help も間違えやすい動詞の代表格です。“I helped my father’s work.”（父親の仕事を手伝った）は典型的な例です。第3版「手伝う」の項目には，「彼の大掃除を手伝う help［×assist］him with his general cleaning《◆ help の目的語には〈人〉を用いるので，×help his general cleaning は不可》」と，生徒がおかしがちな誤りをしっかりと指摘しています。

よくある間違いをもう一つ。「日本では急速な高齢化が進んでいる」を “The Japanese people are rapidly aging.” とした生徒が授業では目立ちました。これでは「日本人が急速に老けこんだ」という感じになってしまいます。「高齢化」の項目を調べてみると，「日本の高齢化はますます進んでいる The Japanese population is rapidly aging.」とあり，age するのは「日本人」ではないことが一目でわかります。

名詞の数の概念も難題です。「英語がうまくなるための努力」の effort は加算名詞か不加算名詞か。英和辞典では，「U努力すること」「C…しようとする努力」が併記されていて，生徒は迷うところです。第3版では，「努力」は具体的な目標に対する努力として使用されることが実際には多いことを考慮してCで挙げています。思い切って発信に必要な情報に焦点をあてた結果です。

正しい言葉の感覚を養うために最も重要なのは，様々な音読活動，要約活動などを通して「使う」ことを意識して英文と接することです。この input と intake に加えて，すでに出会った表現の正しい使い方を確認するために和英辞典を活用することは output において大いに有効です。和英辞典を通して，さらに新しい表現と出会うことも貴重な学習体験です。この辞書との出会いが，生徒の英語の世界を深め，英語で発信する楽しさを実感することにつながるように願っています。

（とみなが　みゆき・滋賀県立膳所高校教諭）